

# 年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問  
PT / OT / ST  
コアカリ(排泄支援)

当施設ハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

## 《年間目標》

1. 排泄の正しいメカニズムが理解できる資料作成・配布
2. 排泄体操のアウトプットの実施(学会発表やyoutubeでの発信)

## ●構造 structure

### <メンバー>

昨年からの引き続き同じメンバーで活動継続中

通所PT1名、入所OT1名、通所OT1名

### <実施頻度>

月平均1回(3単位)

### <使用物品>

ハンドヘルドダイナモメーター(以下HHD)

パソコン(外部研修会の参加や資料作成、データ入力)

文献(J-stage,ユニ・チャームの資料)

## ●過程 process

### <上半期>

年間目標と活動内容の設定・勉強会の内容決定

通所リハでの初期評価

通所で排泄体操実施・再評価

入所・通所のデータ分析(t検定)

研修会の資料作成・発表

入所・通所データでの振り返り

### <下半期>

全国老人保健大会準備・発表

外部研修会の参加(オンライン研修中心)

年間活動の振り返り

## ●結果 outcome

### <排泄のメカニズムについて>

普段申し送りなどに使用される排泄の評価を行うブリストルスケールを中心に便や尿の状態を簡易的に把握できるための資料作成を行い、配布することが出来た。

また、外部の研修はオンラインを中心に「在宅復帰での排尿ケア」「チームでの排便ケア」中心に内容の研修を受けることで様々な視点から排泄に関しての知識を深める機会を作ることが出来た。

### <排泄体操について>

去年に続き入所・通所ともに試験的に導入し、評価をとることが実施できた。

さらにデータを分析し、入所利用者は座位での前方リーチ距離と膝伸展筋力(HHDでの計測)の向上、通所では膝伸展筋力の向上に関与していたという分析結果が出た。

当施設の介護職員からの「便座からの起立動作の介助量を軽減したい」という声に少しでも貢献できたのではないかと考える。またこの結果を踏まえ、学会発表での発表にて活動や情報を発信することができた。

## 《次年度持ち越し課題》

- ・更衣動作や排泄内部に関わる筋へのアプローチ(骨盤邸筋群等)に対してのアプローチの検討
- ・排泄体操の実際の運用について